

令和 5 年 6 月 8 日現在

機関番号：34519

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K10596

研究課題名（和文）多重介護による家族介護の実態とその支援方略の検討

研究課題名（英文）Reality of family caregiving due to multiple caregivers and examination of support strategies

研究代表者

堀口 和子（HORIGUCHI, Kazuko）

兵庫医科大学・看護学部・教授

研究者番号：30379953

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では多重介護の実態および問題点を明らかにし、その支援方略を検討した。多重介護を担う家族介護者は比較的若く、就労者が多かった。要介護者は実父母や義父母で、重中度者と軽度者の組み合わせが最も多かった。時間的な余裕がないなか、ほぼ毎日何らかの介護を複数担っている者が多く、精神的な負担を感じていた。多重介護者には、状況に応じた介護サービスの検討、介護者の健康面に配慮したレスパイト入院・ショートステイの定期的な活用、地域住民による互助などを検討すること、多重介護の特徴を理解した上で、多重介護者の意思を尊重し、多職種で情報共有しながら支援することの重要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究における学術的意義は、1)多重介護の実態を明らかにしたこと、2)多重介護を担う家族介護者への支援を検討したところである。これらは、これまでの研究で取り組まれておらず、その実態は明らかになっていないことから、本研究の新規性と言える。本研究における社会的意義は、多重介護の実態を明らかにしたこと、地域の専門職者による多重介護への理解となり、支援方略の創出につながる。

研究成果の概要（英文）：This study clarified the actual conditions and problems of multiple caregiving and examined support strategies. The family caregivers responsible for multiple caregiving were relatively young, and many were employed. The most prevalent care recipients were biological parents or parents-in-law; the most frequent combination involved providing care for both severe and light care recipients. Many family caregivers were taking on multiple caregiving duties almost every day, with little time to spare, and many felt an emotional burden. Support for multiple caregivers comprises consideration of caregiving services according to the situation, regular use of respite hospitalization and short-stay programs that care for the caregivers' health, and mutual assistance by community residents. It is important to understand the characteristics of multiple caregiving, respect the wishes of multiple caregivers, and provide support while sharing information among multiple professions.

研究分野：在宅看護学，家族看護学

キーワード：多重介護 家族介護者 支援方略 家族支援 在宅介護

1. 研究開始当初の背景

両親、実の親と義理の親、親と配偶者など、一人の介護者(親族)が複数の要介護者を同時に介護する「多重介護」が増加し、多くの介護者が困窮している(結城, 2015)とされている。

「クローズアップ現代」(NHK)では、“多重介護 担い手たちの悲鳴”というテーマで「多重介護」による負担の実態が紹介された。「みんなの介護ニュース」(2015)によると、多重介護を行っている人はおよそ 20 万人で、2030 年には 28 万 3,000 人、2050 年に 43 万人まで増加するという推計結果を報告している。

多重介護を行う家族介護者は単一介護の場合と比べて、どのような介護負担が生じるのだろうか。多重介護に携わったケアマネジャーの自由記載回答によると(結城, 2015)、単一介護以上に介護ストレスや負担感、家族介護者のライフプランへのネガティブな影響が記されている。

「みんなの介護」(2015)のニッポンの介護学欄にも、多重介護を行っている家族介護の健康障害、離職・経済的問題などが挙げられている。介護のための離職者は年間 10 万人を越えている(平成 24 年就業構造基本調査)とされているが、多重介護の場合、就業継続はより一層困難になるのではないかと推測される。すなわち、家族介護者への影響は心身両面のみならず、社会経済的にも大きいものと思われる。さらに、家族介護者も高齢であれば、老老介護と多重介護が重複し、共倒れになるリスクは一層高まると考えられる。また、複数の要介護者を同時に介護する場合、それぞれの要介護者の病気や症状、介護方法が異なることから介護自体の難しさもある。

以上のように、多重介護の課題に関して多くの指摘がなされてきているものの、その実態や支援方略の検討を視野にいたした学術的な知見はほとんど見当たらない。多重介護がどのように介護負担感につながっているのか、どのような支援が多重介護の課題を軽減できるのか、多重介護について学問的に検討することが急務である。我が国の地域包括ケア・在宅介護において、多重介護は今後ますます顕在化する課題であり、社会全体で支援策を講じる必要がある。

2. 研究の目的

本研究は、多重介護による家族介護の実態および問題点を明らかにし、外的資源からの支援方略を検討することを目的とする。具体的には、多重介護を担う家族介護者から多重介護生活の特徴を抽出する。次に、多重介護による家族介護の実態を調査する。さらに、地域の看護専門家から多重介護を担う家族介護者への支援方略を抽出することである。なお、本研究では、多重介護を一人で複数の家族・親族(おじ・おば等)を同時期に介護することとした。

3. 研究の方法

1) 複数の家族員を介護する家族介護者の知見と課題の抽出(文献レビュー)

学術情報の検索は、医学中央雑誌・PubMed・CINAHL・MEDLINE を使用し、2020 年 12 月までの文献を検索した。キーワードは多重介護 OR 二重介護 OR 複数介護 OR 複合介護 OR ダブルケア、英語では“multiple”, “compound”, “collective” の各キーワードに“caregivers” および“caregiving roles”を掛け合わせた。ヒットした文献を介護対象で分類し、内容を精査し、まとめた。

2) 多重介護を担う家族介護生活の特徴の抽出(面接調査)

研究参加者は、一人で要支援・要介護状態にある複数の高齢家族（含、親族）を、責任を持って介護している、あるいは介護した経験のある家族介護者とした。A 県内で研究協力の承諾が得られた訪問看護ステーションの管理者に家族介護者の紹介を依頼し、承諾が得られた多重介護を担う家族介護者に半構造化面接を実施した。面接内容の逐語録をもとに、内容をコード化し、類似性・相違性を考慮しながら分類・集約しカテゴリ化した。

3) 多重介護による家族介護の実態調査（量的研究）

都道府県別の第 1 号被保険者認定者数割合が反映されるように、全国訪問看護事業協会に掲載された各都道府県の訪問看護ステーションからランダムに選抜し 2,079 施設に多重介護に関する調査協力依頼書を送付した。その結果、同意が得られた 82 ステーションの管理者に、多重高齢介護を行っている主介護者への調査票配布を依頼した。調査票は主介護者及び介護を受けている高齢家族の基本属性、多重高齢介護をするようになった理由、主介護者のメンタルヘルス（K6 scale）、介護に対する認識（広瀬, 2005）や対処方略（岡林ら, 1999）、介護生活影響尺度（岩田・堀口, 2016）、家族介護生活評価チェックリスト（堀口, 2013）等の質問項目である。調査票を配布した 243 名の主介護者のうち、155 名から郵送法による回答（回収率 63.8%）が得られ、基本属性記載の欠損 2 名を除く 153 名のデータを解析した。

4) 多重介護を担う家族介護者への支援の検討（グループインタビュー）

多重介護による家族介護者を支援した経験がある地域の看護専門家（専門看護師・認定看護師・修士課程修了者・管理者及び教育担当者など）を対象に、事前質問紙調査およびグループインタビューを 2 回実施した。事前質問紙調査の結果とグループインタビューした内容の逐語録をもとに、内容をコード化し、類似性・相違性を考慮しながら分類・集約し、現在、カテゴリ化を行い、結果をまとめている段階である。

4. 研究成果

1) 複数の家族員を介護する家族介護者の知見と課題

複数の家族員の介護は、複数の高齢者を介護する「多重介護」と育児（子の世話）と親の介護をする「ダブルケア」に大別された。複数の家族員を同時期に介護する者に関連する介護形態についてはいくつかの表記が用いられてきた。学術研究を進めていく上でこのような用語の混在が認められる状況は、エビデンス構築の障壁となる可能性がある。そこで、複数の高齢者を 1 人で介護する状態を「多重高齢者介護: multiple elderly caregiving」という表記で統一し、研究知見の蓄積が望まれる。

多重介護に関する国内文献は存在せず、国外文献では介護と他の生活活動との葛藤による心身の負担が指摘されていたが、介護者や介護の詳細に関する記述は見られなかった。多重介護は単一の介護より負担が大きいと考えられるが、その実態は不明であった。多重介護の問題の明確化と支援体制の構築のためにさらなる研究が望まれた。

2) 多重介護を担う家族介護生活の特徴

多重介護を担う家族介護者の年齢は 50~60 歳代、すべて女性であった。一人で 2~5 名の要支援・要介護状態にある高齢家族を介護していた。家族介護者との続柄は、実・義母が最も多く、要介護度には幅があった。分析の結果、【入院時の対応と在宅介護による心身の疲労】、【多重介護と自身の生活・仕事との両立の困難さ】、【認知・身体機能が低下した複数の高齢家族の介護に

よる精神的負担】、【多重介護による拘束感】、【多重介護による時間的余裕のなさ】、【睡眠不足】、【自分自身の体調管理が後回しになる】、【多重介護継続による将来への不安】、【経済的負担】、【多重介護によるサポートの不足】、【複数の高齢家族の同時期体調不良による対応困難】などが抽出された。多重介護を担う家族介護者は、限られた時間のなかで複数の高齢家族を介護しており、入院の対応や認知・身体機能が低下した高齢家族の多重介護により、更なる時間的拘束によって心身の疲労や負担を感じていることが示唆された。

3) 多重介護による家族介護の実態調査

多重介護を担う主な家族介護者は女性が多く、比較的若い世代で、仕事を行いながら、複数の実父母、義父母等を多重介護しているものが多かった。多重介護の理由は、「家族の中で自分が、一番介護ができる状況であった」が最も多く(64%)、次に「自分の他に介護をする家族がいなかった」(48%)であった。主介護者が行っていた介護種類数は平均8種類で、41%の主介護者が何らかの医療的ケアを担っていた。多重介護の期間は平均4年間で、1日の介護時間は平均6時間、6割も者が夜間介護を行っていた。多重介護の困りごとでは、「精神的負担」(71%)が最も多く、「時間的余裕がない」(61%)、「身体的負担」(54%)、「同時に2名の介護が必要になることがある」(54%)の順であった。要介護度の組み合わせは、中重度者(要介護3以上)と軽度者(要支援～要介護2)が37名(25%)で最も多く、軽度者同士が29名(20%)、中重度者同士が18名(12%)の順であった。認知的介護評価では介護継続不安感の平均点が最も高く、介護に対する対処方略では気分転換が最も低かった。時間的な余裕がないなか、ほぼ毎日何らかの介護を複数担っているものが多く、精神的な負担を感じており、多重介護を行っている家族介護者に特化したサポート体制の検討が重要であることが示唆された。

4) 多重介護を担う家族介護者への支援の検討

現段階では、多重介護を担う家族介護者の支援として、経済面を考慮した上で、状況に応じた介護サービスの検討、介護者の健康面に配慮したレスパイト入院・ショートステイの定期的な活用、地域住民による互助などを検討し、家族介護者の多重介護の特徴を理解した上で、多重介護者の意思を尊重し、多職種で情報共有しながら支援することの重要性が示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 滝ゆず、岩田昇、堀口和子、鈴木千枝	4. 巻 25 (2)
2. 論文標題 複数の家族員介護の実態に関する文献レビュー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本在宅ケア学会誌	6. 最初と最後の頁 53-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Kazuko Horiguchi, Noboru Iwata, Yuzu Taki, Yukie Suzuki, Mami Kubota, Sumiko Kabayashi
2. 発表標題 Literature review on caregivers with multiple care responsibilities
3. 学会等名 Aging & Society: Eighth Interdisciplinary Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 堀口和子、滝ゆず、鈴木千枝、岩田昇
2. 発表標題 多重高齢介護によって家族介護者が経験する困難状況
3. 学会等名 第27回日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 堀口和子、岩田昇、鈴木千枝、衣斐響子
2. 発表標題 多重高齢者介護による家族介護の実態
3. 学会等名 第42回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鈴木 千枝 (SUZUKI Yukie) (10635832)	兵庫医科大学・看護学部・准教授 (34519)	
研究分担者	岩田 昇 (IWATA Noboru) (80203389)	獨協医科大学・看護学研究科・教授 (32203)	
研究分担者	久保田 真美 (KUBOT Mami) (60759752)	兵庫医療大学・看護学部・助教 (34533)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------